

読書を通じて国語力を育てる動きが広がっている。最近では入試でも、資料を読み込んで答える問題が増えており、全ての教科の土台として読解力の重要性が高まっていることも背景にある。活字に触れる機会を増やそうと、学校や地域、民間企業が読書を促す取り組みを紹介する。

「工場で働いているリスは何匹いたかな？」
「100匹！」

1月下旬、住宅の居間を改装した東京都品川区の10畳ほどの教室で、本の読み方を学ぶ民間塾「ベネッセグリムスクール」の授業が行われていた。小学4～5年生9人が事前に読んできた児童小説「チヨコレート工場の秘密」(ロアルド・ダール著)の感想を次々に発表し、講師が出す小説の内容にちなんだクイズに競って答えていた。

グリムスクールは、ベネッセビースタジオ(東京都渋谷区)と総合教育企業のスプリックス(東京都豊島区)が共同開発したプログラム。小学2～6年生を対象に2003年に開講した。受講生は毎月1冊、物語や詩集などの課題図書を読ませ、週1回1時間の授業で感想を共有する。本の内容に関するクイズやゲームなどを通して読解力や表現力を鍛えるのが特徴で、全国に約740教室を展開している。

教室数が拡大する背景には、インターネットの普及に

読書のススメ 1

教育ルネサンス

No.2787



名称	授業回数	特徴
ベネッセグリムスクール	週1回 60分	本は自宅で読み、教室では本の内容にちなんだクイズなどに取り組む
ことばの学校	週1回 45～50分	自社開発したアプリで課題図書の朗読音声を聞きながら、紙の本を黙読
ヨンデミラーオンライン	—	AIが子どもの好みや読む力に合わせて選書。全国携り図書館の蔵書検索と借りられる本だけを提案する
かまくら国語塾	月2回 70分	自由な読書スタイルを提唱。教室に設置したハンモックやテントの中でも本が読める

民間企業のサービス例
読書習慣を身に付けさせる

活字に触れる「習い事」盛ん

活字を読む人ほど、成績が良い——。文部科学省が昨年4月に実施した全国学力・学習状況調査(全国学力テスト)のアンケート結果からは、「読書が好き」「新聞を読んでいる」という児童生徒ほど、成績が良い傾向がみられた。

読書好きと成績に相関

文科省調査

アンケート結果によると、「読書は好きか」との質問に「当てはまる」と答えた小学生の学力テストの平均正答率は国語72.9%、算数68.4%だった。一方、「当てはまらない」と答えた児童は国語57.4%、算数52.9%で、15%以上も差が開いた。

新聞についても尋ねたところ、「ほぼ毎日読んでいる」と答えた小学生の平均正答率は国語75.9%、算数74.3%で、「ほとんど、または、全く読まない」と答えた児童より10%以上高かった。

中学校でも、本や新聞を読んでいる生徒の方が、国語、数学、英語の成績が良かった。

自宅にある本の冊数が多いほど成績が高い傾向も、小中学校の全教科でみられた。例えば、小学校の算数の平均正答率は、「0～10冊」が50.1%だったが、「201～500冊」は71.7%と高かった。

楽しさ知り習慣化促す

よる子どもの本離れに対する親の危機感がある。ベネッセビースタジオの担当者は「子どもがスマートフォンで動画ばかり見て、自分の言葉で感想をうまく表現できないのが心配という保護者も多い」と語る。

品川区の教室に通う区立浜川小5年の池田真奈美さん(11)は「物語の世界を想像するのが楽しく、学校でも休み時間に本を読むようになった」と話す。

■朗読活用や本の推薦
子どもに読書習慣を身に付



児童小説の内容を基にしたゲームに取り組む子どもたち(1月下旬、東京都品川区のベネッセグリムスクール南大井5丁目教室で)

オンライン上では、子ども好みや読む力にあわせてAI(人工知能)が絵本や児童書を紹介してくれる「ヨンデミラーオンライン」が、20年に

スタートした。登録した最寄りの図書館で借りられる本から、一人ひとりにぴったりの本を薦めてくれる。運営会社によると、累計利用者数は23年に8000人を突破したという。

■ネット利用に押され

近年はネットの普及により、本よりスマホやタブレット端末を手にとる子どもが増えている内閣府の調査では、10歳以上の小学生の平日1日あたりのネット利用時間は22年度が213・7分(3時間33分)で、19年度比で84・6分増加した。10歳の利用内容では、「ゲームをする」(89・4%)がトップで、「動画を見る」(84・8%)が続いた。

東京大学とベネッセ教育総合研究所の共同調査によると、小学4～6年生の1日の平均読書時間は19年の20・7分から、22年には16・8分に減少。全体の45・5%が「0分」と回答していた。

大正大の稲井達也教授(国語科教育学)は「子どもがゲームや動画視聴ばかりで『本を読んでほしい』と思う保護者が広がる一方で、どのように読書習慣を身に付けさせれば良いか分からず、民間サービスに頼る家庭が増えている」と分析。その上で、「読書で養える想像力は就学前の大人の関わり方で変わる。幼少期から子どもが自ら本を手にとれる機会を作ることが重要」と指摘する。